別紙

令和3年度　学習分析事業　改善計画　三原市立田野浦小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	50.9	48.8	46.9	45.7	48.3	48.1
算数	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	49	48.2	49.1	45.3	48.7	48.1
理科	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均			49.4	47	48.2	48.2
全体	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	49.8	48.5	48.2	46	48.4	48.2

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数
目標値 （対県比）		
結果 （対県比）	62 （－4）	69 （－1）

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） ●国語科では，「評定1」の児童の割合に学年でばらつきがある。（3・4学年・6学年で1割を超えている） ●各学年の課題と正答率は以下の通りである。 2年「文章を読み，感想を伝え合う」（45.3%）　3年「文章を読み，感想を伝え合う」（34.1%）　4年「目的に応じて工夫して書く」「主題や構成を読み取る」（ともに37.1%）　5年「話や意見の背景を考え話し合う」（25.6%）　6年「情報を選び構成を考えて話す」（40.5%） ●算数科では全学年を通して，「評定1」判定の児童の割合が1割を超えている。 ●各学年の課題と正答率は以下の通りである。 2年「たし算とひき算」（49.4%）　3年「数の構成と表し方」（59.4%）　4年「わり算」（41.4%）　5年「わり算」（39.8%）　6年「単位量あたり」「速さ」（26.3%）	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） ●国語科における課題は以下の通りである。 「自分の主張が明確に伝わるように，文章全体の構成や展開を考える」（49.3%　対県比−16.8） 「文中における修飾と被修飾との関係を捉える」（28%　対県比−16.5） 「文章を図表と結びつけて必要な情報を見つける」（20%　対県比−15.9） 「中心となる語や文を見つけて要約する」（20%　対県比−10.6） 「配当学年の漢字を書く　つみ重ね」（44%　対県比−10.4） ●算数科における課題は以下の通りである。 「直角三角形の面積を求める式と答えをかく」（31.6%　対県比−20.7） 「除法の結果について，日常生活の場面に即して判断する」（77.6%　対県比−5.6）

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇「全員が分かる」授業づくりの工夫 →ユニバーサルデザインの授業づくり →対象児童の理解を想定した発問構成 →児童が課題意識をもつことができる「めあて」の設定と「まとめ」 →ICT機器等の効果的な活用 〇学力に課題のある児童への基礎的学力と学習意欲の向上	①NRT結果の分析による，各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案 ②各主任会，部会において，現状と課題及び改善計画の共有 ③ユニバーサルデザインを基本とした授業づくり →「対象児童」が分かる授業づくり ④ドリルタイム等を活用した反復学習による学習事項の徹底 ⑤TT授業の活用（学力が必要な児童を中心） ⑥「放課後学習」での個別指導（学力の課題のある児童への支援） ⑦ICT機器等の効果的な活用（視覚支援）	①6月 ②6月 ③年間を通して実施，授業研究 ④年間を通して実施 ⑤年間を通して実施 ⑥年間を通して実施 ⑦年間を通して実施 ⑧月1回	〇算数科単元末テスト（80%以上） →60%未満の児童を中心に放課後の個別学習の実施 →実施後の伸び率の把握 〇各クラスの学習状況の伸び率の把握（前年度比との分析） 〇ドリルパークによる個別分析（回答数，得点率の低い児童の把握）
【学級・学習集団づくり】 〇児童全員が安心して生活できる学級づくり 〇児童同士がよさを認め合えるような学習の場の設定（特別活動と学習活動の両面から） 〇教師による児童への肯定的な声掛けの継続 〇構成的エンカウンターの計画的な実施	①QU結果の分析による各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案 ②各主任会において現状と課題及び改善計画の共有 ③「生活のきまり」学習規律の徹底。 ④学年会を通した各学級の児童の様子の共有と，必要な支援の検討 ⑤授業や特別活動を通して，お互いの良さや違いを認め合える場の設定 ⑥「できたこと」だけでなく「がんばっていたこと」と視点を決めて肯定的な声掛け	①6月 ②6月 ③1か月ごとに取組を振り返りながら実施 ④学年会：週に1回 ⑤年間を通して実施 ⑥年間を通して実施	〇「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇と「学級生活不満足群」や「要支援群」に属する児童の割合の減少。